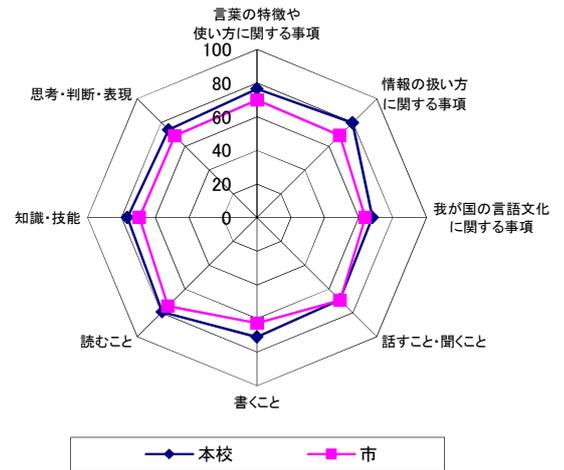


宇都宮市立峰小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.7	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	79.7	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	68.1	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	69.1	69.5	71.5
	書くこと	71.0	62.8	67.1
	読むこと	79.2	74.4	73.7
観点別	知識・技能	76.5	69.4	71.9
	思考・判断・表現	73.9	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

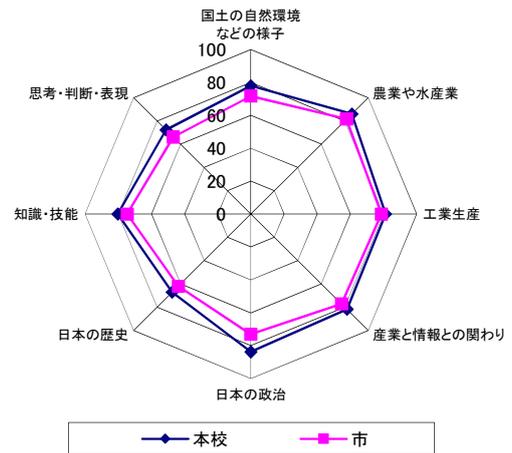
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○本校の平均正答率は76.7%で、市の平均を6.8ポイント上回っている。 ○文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使うことや、文と文の接続の関係の理解については10ポイント近く上回っている。	・学校での学習に加え、漢字ドリルや小テストを活用するなど、繰り返し学習の充実を図る。 ・既習漢字の復習を積極的に行うとともに、接続語などの文法学習や敬語等についても引き続き指導していく。
情報の扱い方に関する事項	○本校の平均正答率は79.7%で、市の平均を10.5ポイント大きく上回っている。	・資料を読み、適切に情報を処理する練習を普通の授業でも取り入れる。
我が国の言語文化に関する事項	○本校の平均正答率は68.1%で、市の平均を4.3ポイント上回っている。	・新出漢字の学習の際は、漢字の由来等についても触れる。
話すこと・聞くこと	●本校の平均正答率は69.1%で、市の平均を0.4ポイント下回っている。特に、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え記述することが、市の平均を5.2ポイント下回った。	・話すことの構成を考える際に、話す目的に沿った話し方を意識する指導を行う。 ・朝の会などの時間でスピーチを取り入れ、話すだけでなく、伝わりやすい話し方の指導を行うようにする。
書くこと	○本校の平均正答率は71.0%で、市の平均を8.2ポイント大きく上回っている。 ○目的に応じて文章を簡単にまとめたり、反論やそれに対する意見を、条件に合わせて書いたりすることが10ポイント以上大きく上回っている。	・文章の構成を工夫し、自分の考えが読み手に正しく伝わる文章を、条件に合わせて書く力をさらに育てていけるよう、作文指導や討論活動の中で指導していく。
読むこと	○本校の平均正答率は79.2%で、市の平均を4.8ポイント上回っている。 ○特に説明的文章の内容を読み取る問題の正答率が市の平均を上回っている。	・いろいろな種類の本を読むことを通して、様々な表現方法に触れ、登場人物の心情をとらえたり、それをまとめる機会を多く設ける。 ・授業の中で、意見交換などの学び合いの場を設定し、自分の考えをしっかりと持つことや自分の考えと比べながら友達の考えを聞く活動を行い、自分主体の学びができるよう指導していく。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	78.0	71.6	67.5
	農業や水産業	86.0	81.5	82.1
	工業生産	81.2	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	81.9	77.2	68.2
	日本の政治	83.7	73.1	77.9
	日本の歴史	67.2	62.0	65.8
観点別	知識・技能	80.3	74.6	74.5
	思考・判断・表現	72.3	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

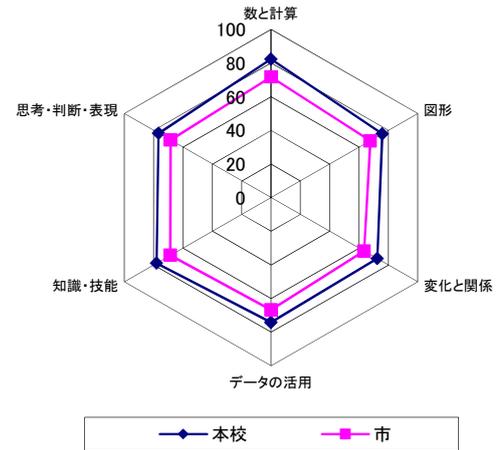
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○平均正答率は78%で、市の平均を6.4ポイント上回っている。 ○資料に着目して、森林の働きを捉え表現する問題の平均正答率は、市の平均を8.4ポイント上回った。 ●日本のまわりの国々の国旗から地図上の位置を判断する問題の平均正答率は、市の平均を1.7ポイント下回った。	・日本の周りの国々の特色を確認するとともに、地図に慣れ親しみ、新出の地名に関しては、その位置を地図で確かめて、言葉と位置を一致させるよう、今後も指導を重ねていく。 ・資料を活用する力を育てるため、今後も教科書の表やグラフから読み取れることを考えさせる。
農業や水産業	○平均正答率は86%で、市の平均を4.5ポイント上回っている。 ○地産地消の取り組みについての理解を図る問題では、市の平均を7.4ポイント上回った。 ○米の産地を表している場所を選択する問題の正答率は、市の平均を4.5ポイント上回った。	・既習領域においても、資料を適切に読み取り設問に合う回答に達するよう、繰り返し指導していく。 ・地名とその位置がつながるよう地図帳や地図サイトを活用していく。
工業生産	○平均正答率は81.2%で、市の平均を2.5ポイント上回っている。 ○自動車の組み立て工場の作業工程を正しい順番に並べる問題では、市の平均を4.1ポイント上回り、平均正答率は95.7%となった。 ●日本の輸出品の割合と輸出額の変化を表した円グラフを読み取る問題では、市の平均を1.8ポイント下回った。	・今後も工業の仕組みを映像資料などで確認するなどしていく。 ・円グラフなどの資料を読み取って分かることをノートにまとめたり、グループで話し合ったりするなど資料を活用する力を育てていく。
産業と情報との関わり	○平均正答率は81.9%で、市の平均を4.7ポイント上回っている。 ○「インターネットの利用」についての知識・技能の問題は、平均正答率が91.3%と高い。 ○資料に着目して、コンビニエンスストアの発注システムについて捉え、判断する問題は、市の平均を9.7ポイント上回ったが、72.5%にとどまった。	・情報産業や情報化社会の領域においては、自分の身の回りの問題であるという認識をもたせながら、正確な情報を受け取り発信する力を定着させるとともに、自ら判断できるように情報モラルについても指導していく。
日本の政治	○平均正答率は83.7%で、市の平均を10.6ポイント上回っている。 ○日本国憲法についての知識・技能の問題は、市の平均を10.4ポイント上回っている。 ○基本的人権の尊重について生活の中の具体的事例をもとに判断する問題では、平均を5.3ポイント上回っている。 ●三権分立の仕組みを表した図から、国民の政治の仕組みを判断する問題は、市の平均を10.9ポイント上回っているが、60.9%にとどまった。	・時事問題を取り上げ、学習した日本国憲法や三権分立などが自分達の生活と関係していることを実感させていく。
日本の歴史	○平均正答率は67.2%で、市の平均を5.2ポイント上回っている。 ○「室町時代の文化」についての知識・技能の問題は、市の平均を12.9ポイント上回っている。 ●「北条政子の訴え」についての理解をもとに年表を読み取る問題についての、平均正答率は市の平均を1ポイント上回ったが、63.8%にとどまった。	・1つの資料だけでなく、いくつかの資料を組み合わせながら、事象をしっかり捉え、その時代の様子や繋がり等が把握できるよう、指導を重ねていく。 ・日常のノート指導を通して、よりよいノートの作り方やまとめ方を指導していきたい。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	82.3	71.8	76.2
	図形	75.8	67.7	67.8
	変化と関係	72.5	63.4	62.7
	データの活用	74.2	66.7	61.5
観点別	知識・技能	78.0	68.6	70.7
	思考・判断・表現	76.7	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

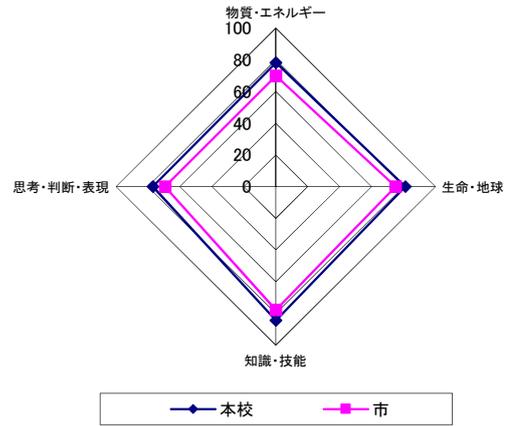
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の平均正答率は82.3%で、市の平均正答率を10.5ポイント上回っている。また、本領域のすべての設問において、市の正答率を上回っており、約分ありの分数×分数の設問以外4ポイント以上高い。 ●分数の除法の文章問題で、問題文にあった式を選択する設問では、正答率が62.5%と他の設問と比べて最も低い。	・整数、小数、分数における四則計算の確実な習熟を図るために、AIドリルや選択式のプリント学習等、個に応じたに練習に取り組み、主体的な学習態度の醸成を図る。 ・文章問題の解決に当たっては、場面における数量関係を図や数直線に表したり、式に表したりすることを通して課題を確実に把握できるようにする。
図形	○本校の平均正答率は75.8%で、市の平均正答率を8.1ポイント上回っている。また、本領域のすべての設問において、市の正答率を上回っており、中でも面積と体積の活用問題で円と他の図形を組み合わせた設問では15ポイント以上高い。 ●円の面積を求める設問では、円と四角形の組み合わせでは58%、半円と四分の一円の組み合わせでは49.3%と正答率が最も低い。	・複数の図形を組み合わせた形の面積を求める問題では、操作活動を通して等積変形・倍積変形など図形の見方を育み、求積の式との関連の理解を深めさせる。 ・線対称な図形については、対称の軸と対応する頂点との関係について、測定や作図を通して特徴や性質を理解させ、活用能力を深めさせる。
変化と関係	○本校の平均正答率は72.5%で、市の平均正答率を9.1ポイント上回っている。また、本領域のすべての設問において、市の正答率を5ポイント以上上回っており、基準量と比較量から割合を求める設問では14.7ポイント高い。 ●基準量と比較量から割合を求める設問では、本領域において平均正答率は65.2%と最も低い。	・「割合」の問題については、基準量、比較量、割合について、数直線に表す活動を通して3項目の関係を確実に捉えられるようにするとともに、典型的な文章問題の解決を通して見方考え方の醸成を図る。 ・「速さ」における秒速・分速・時速の問題については、数直線に表現することを通して比例関係にあることを理解することで解決できるようにする。
データの活用	○本校の平均正答率は74.2%で、市の平均正答率を7.5ポイント上回っている。また、本領域では、ほしいデータを求めるために必要な情報を選ぶ設問以外、5ポイント以上上回っている。 ●帯グラフを読み取り、説明する設問では、49.3%と他の設問に比べて最も低い。	・帯グラフの読み取りや、複数のグラフの変化については、割合の変化であることを確認するとともに、それぞれの基準量に基づく比較量を求めることを通して、割合のもつ意味と比較量の示す意味について考えを深めさせていく。 ・データをもとにした考察の仕方では、柱状グラフや円グラフ等の示す内容や特徴について改めて理解を促し、変化の示す意味について考える場をしっかりと持てるようにする。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	78.3	69.9	67.8
	生命・地球	81.2	75.1	73.7
観点別	知識・技能	84.3	77.8	78.4
	思考・判断・表現	77.0	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○本校の平均正答率は78.3%で、市の平均を8.4ポイント上回った。</p> <p>○ほぼすべての設問において市の平均正答率を上回った。特に、ふりこのきまりの「ふりがが1往復する時間とふれはばの関係を調べるための対照実験を計画できる」ことを問う問題では、平均正答率が87.0%で、市の平均を18.0ポイント上回った。</p> <p>●水よう液の性質の「赤色リトマス紙のようすから、水溶液の液性がわかる」ことを問う問題では、市の平均を4.6ポイント上回ったが、60.9%とやや低水準だった。</p>	<p>・「水よう液の性質」の単元では、5年生で学習した「もののとけ方」の学習内容と関連付けながら指導にあたっていく。また、水溶液の液性においては、見た目、におい、蒸発して残るもの、リトマス紙などにより、複数の水溶液から特定のものに絞り込んでいくことで判別ができるということを、フローチャートなどを活用しながら指導していく。</p>
生命・地球	<p>○本校の平均正答率は81.2%で、市の平均を6.1ポイント上回った。</p> <p>○ほぼすべての設問において市の平均正答率を上回った。特に、植物のつくりとはたらきの「くきを縦に切ったときの断面の、水の通り道のようなすを理解している」ことを問う問題では、平均正答率が89.9%で、市の平均を11.8ポイント上回った。</p> <p>●月と太陽の「観察カードの月のようすから、月を観察した時刻を推測できる」ことを問う問題では、平均正答率が53.6%で、市の平均を6.3ポイント下回った。</p>	<p>・「月と太陽」の単元は、宇宙空間での出来事のため、月や太陽の位置関係をイメージすることが苦手な児童もいる。授業ではモデルを提示したり、デジタル教科書の動画を見せたりしながら、視覚的に捉えさせることで理解の定着を図っていく。</p>

宇都宮市立峰小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学んだことを工夫してまとめたり、自分の考えを分かりやすく文章に書き表したりする力の育成	様々な場面で書く指導の充実を図っている。学年の実態に応じて、書くテーマや内容項目、字数など条件に合わせた作文指導を行っている。	6年生の国語科「書くこと」の領域における平均正答率は71.0%で、市の平均を8.2ポイントと大きく上回った。特に、目的に応じて文章を簡単にまとめたり、反論やそれに対する意見を、条件に合わせて書いたりすることが10ポイント以上大きく上回った。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度初めに「家庭学習の手引き」を作成し、その中で曜日ごとの学習時間の予定を立てるなどして、計画的に学習に取り組めるように支援している。また、家庭学習がんばり週間を設け、継続的な家庭学習への取り組みを促している。	1・2年生では、「宿題はきちんとやっていますか」の肯定割合は90%以上であったが、3～6年生の「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合は約65%であり、宇都宮市の平均と同程度であった。また、「授業で習ったことをその日のうちに復習している」の肯定割合は、学校全体としては、市の平均を7ポイント上回っているが、57%にとどまっている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・4～6年生は、国・県・市の調査ともに、書くことの領域で市の平均と比べて高く、また、市の調査の6年国語科の「予想される反論とそれに対する意見を書く」問題の平均正答率は、市の平均を10ポイント、算数科の「帯グラフを読み取って説明する」問題の平均正答率は、市の平均を15ポイント上回った。児童質問紙「授業で習ったことを自分なりに分かりやすくノートにまとめている」の肯定割合については、学年によって差はあるが、学校全体としては市の平均を上回っている。自分の考えを分かりやすく文章に書き表す力の育成に取り組んできた結果であると言える。次年度も継続してテーマや字数などの条件に合わせた作文指導に取り組むとともに、グラフ等を読み取り分かったことを、自分の考えを整理してまとめられるような指導を取り入れ、一層の表現力の育成に努める。

・国・県・市の調査において「宿題をきちんとやり、期限までに提出している」の肯定割合は90%以上、自ら取り組む態度に関わる項目の肯定割合も80%以上と、いずれも市の平均を上回っている。また、「学習したことをその日のうちに復習している」の肯定割合も市の平均を上回っているが、決して高くはない。次年度は、自主学習計画カードなどを用いて計画的に家庭学習に取り組む指導を充実させるとともに、ノート指導の充実も図る。